

研究所へのお便り

中国からこんにちわ

王 文樵
東京水産大学

A letter to the Laboratory

Wen Qiao Wang

私は平成2年1月まで中国福建省にある廈門大学大学院博士過程の学生として、クラゲの刺胞と生活史について研究をしてきました。以前から日本の腔腸動物の研究者の論文を読んで、是非日本へ留学したいと考えていたところ、東京水産大学の森信教授のご協力によって、昨年2月ようやくその夢が叶えられました。

留学の目的は、中国で行って来た腔腸動物の研究を進展させ、更に新しい生物学と技術を学ぶことです。そのことで森先生から阿嘉島臨海研究所を紹介され、サンゴの研究を始めることにしました。

はじめて訪れた阿嘉島は、1ヵ月ほど東京で過ごした後ただただ、ただただ驚くばかりでした。研究所がある阿嘉島は、東京の汚れた空気の中での生活とは一変した、自然が豊かに残されたすばらしい環境だからです。島を巡る東西南北至るところにサンゴがひしめき合っていて、ところせましと生息しています。色とりどりの枝サンゴ、テーブルサンゴ、塊状のサンゴなどがポリプを出して、生き生きと花のように美しく咲き乱れ、サンゴの研究をする者にとって、それは本当に海の中のお花畑といえるでしょう。そんな美しいサンゴ礁の海に潜ると、日本での生活の苦勞や悩みなどどこかに吹き飛ばしてしまい、まるで自然の一部になったような気分になります。

また研究所は海の近くにあるので、フィールドに出るのにとても便利です。産卵調査では職員の方が、

毎晩海に潜りに行かれるのを見ていて、大変だなあと思う反面、やはりこの研究所ならではのものと、羨ましく思いました。

はじめ研究所は離島にあるので、情報が不足するのはと心配していたのですが、日本のさまざまな分野の研究者や、時には外国からの研究者も来訪するので、あちこち出向かなくても、大学などにこもって研究するより、かえって色々な知識や情報が得られるのですね。

私はここでサンゴの産卵と初期発生を研究していますが、これまでの成果を近いうちに論文にまとめて発表する予定です。将来日本で学んだ事を中国に持ち帰り、更に発展させて、学問を通じて中国と日本の友好関係を深める役割を果たしたいと考えています。

最後になりましたが、私の研究を援助し、協力して下さっている財団の保坂理事長と阿嘉島臨海研究所の職員の皆様に心から感謝を申し上げます。